診察終了時の患者の返答の分類に関する前向き観察研究

2026 年から 2029 年までに脳神経内科外来を受診した患者さん
2027 年から 2029 年までに東京労災病院に入院し認知症ケアチームが介入した患者さん

研究協力のお願い

当科では「診察終了時の患者の返答の分類に関する前向き観察研究」という研究を行います。この研究は、2026 年 11 月 1 日より 2029 年 3 月 31 日までに東京労災病院脳神経内科外来を受診、または入院した際に認知症ケアチームの介入を受けた患者さんを調査する研究で、研究目的や研究方法は以下の通りです。直接のご同意はいただかずに、この掲示によるお知らせをもってご同意を頂いたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の主旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。**この研究へのご参加を希望されない場合、途中からご参加取りやめを希望される場合、また、研究資料の閲覧・開示、個人情報の取り扱い、その他研究に関するご質問は下記の問い合わせ先へご連絡下さい。**

（１）研究の概要について

研究課題名：診察終了時の患者の返答の分類に関する前向き観察研究
研究期間：2026 年 11 月 1 日～2029 年 3 月 31 日
研究責任者：東京労災病院　脳神経内科　三品　雅洋

（２）研究の意義、目的について

アルツハイマー型認知症では、他の認知症疾患と比べると、礼儀・社会的作法が比較的保たれていることが知られています。そのため、東京労災病院の認知症ケアチームの回診では、礼節の状態でアルツハイマー型認知症か否かの判断の一つとして用いてきました。しかし、判断の基準に科学的根拠がありませんでした。この研究の目的は、私たちが外来や回診を終えるときに「お大事にしてください」の声かけの返答を分類し、認知症診断との関連を調査することです。

（３）研究の方法について（研究に用いる試料・情報の種類）

2026 年 11 月 1 日より 2029 年 3 月 31 日までに東京労災病院脳神経内科を受診、または入院した際に認知症ケアチームの介入を受けた患者さんにおいて、診察終了時のお返事を解析し、認知症との関連についての検討を行います。
この研究は、患者さんの以下の試料・情報を用いて行われます。
試料：音声の文字起こし
情報：年齢、性別、診断、画像など

（４）個人情報保護について

研究にあたっては、個人を直接特定できる情報は使用されません。また、研究発表時にも個人情報は使用されません。その他、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（文部科学省・厚生労働省）」および「同・倫理指針ガイダンス」に則り、個人情報の保護に努めます。

（５）研究成果の公表について

この研究成果は学会発表、学術雑誌などで公表します。

（６）問い合わせ等の連絡先

東京労災病院　脳神経内科　部長　三品　雅洋
〒143-0013　東京都大田区大森南 4-13-21
電話番号：03-3742-7301（代表）
メールアドレス：mishina@nms.ac.jp